

# ブラジルの政策金利引き下げについて

## ポイント① 政策金利を13.00%に引き下げ

1月11日（現地時間）、ブラジル中央銀行は金融政策決定会合において、政策金利を0.75%引き下げ、年率13.00%とすることを決定しました。

利下げは3会合連続となり、0.75%の利下げ幅は、市場予想のコンセンサスの0.50%を上回りました。

## ポイント② 景気支援のため利下げ幅を拡大

同中銀は、インフレの鈍化やブラジルレアルの安定などを受けて、停滞する同国の経済活動を支援するために、利下げ幅の拡大を決定しました。

2016年12月のインフレ率は6.3%と、約2年半ぶりの低水準となっています。同中銀は、インフレ期待は抑制され、デフインフレが拡大していると説明しています。また、レアルは、昨年11月の米大統領選でのトランプ氏の予想外の勝利などを受けて対米ドルで下落したものの、12月以降は上昇基調となっています。

一方経済は、高い債務水準に加え、企業や消費者の信頼感が弱いことなどが依然として成長の妨げとなっています。同中銀は、景気回復が想定よりも大きく遅れているとの認識を示しています。

今回の決定について同中銀は、デフインフレの拡大や想定以上の経済活動の停滞を受け、金融緩和サイクルを前倒し、新たな緩和ペースを設定することが可能だと説明しており、景気支援を優先する意向を示したものとされます。

## ポイント③ ブラジルレアルは対米ドルで横ばい

1月11日のニューヨーク外国為替市場では、今回の決定に対する反応は限定的となり、対米ドルで前日比ほぼ横ばい、対円で同0.4%程度のブラジルレアル安となりました。

今後の金融政策について、同中銀は利下げの幅やペースは、インフレ見通しや、インフレに影響を与える要因次第としており、一部の市場参加者は、依然として利下げの余地は大きいとみています。

図1：政策金利の推移

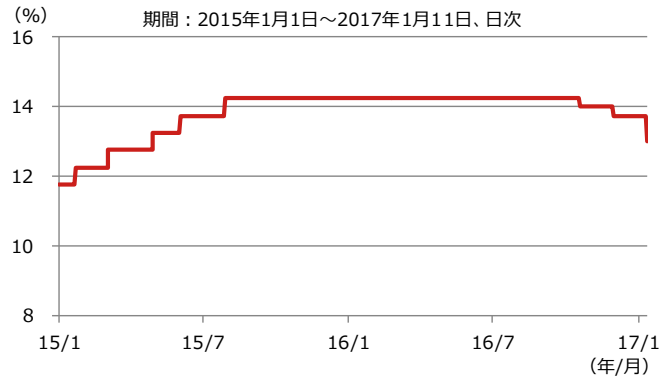


図2：拡大消費者物価指数（前年同月比）の推移

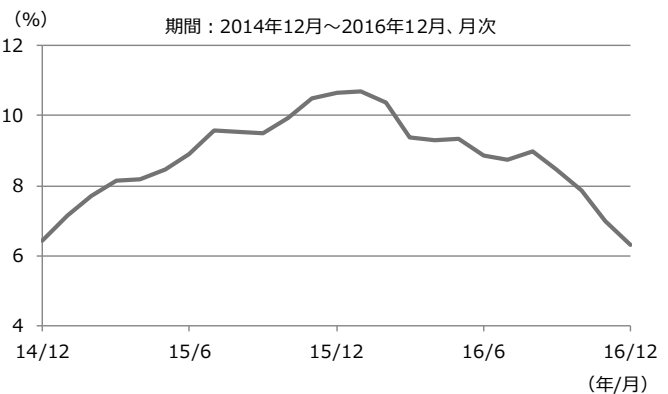


図3：為替レートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要  
イベント

2月1-2日	貿易収支(1月)
2月8日	拡大消費者物価指数(1月)
2月22日	金融政策発表